

2026年度 学校評価 南山高等学校・南山中学校（女子部）

校長 赤尾 道夫

目指す学校像・育てたい生徒像 目指す学校像 南山学園の教育モットーである「人間の尊厳のために」を教育活動の中で具現化できるよう、「高い人格・広い教養・強い責任感」を校訓に掲げ、6ヵ年一貫の女子教育を通して、確かな学力を身につけ、キリストの教える愛を身につけた生徒の育成を通して社会に貢献することを目指す学校 育てたい生徒像 「地の塩・世の光として生きる者となる」 「真の愛を知り、広い教養を身につけ、自らの良心に従って愛の奉仕に生きる者となる」	学校評価の公表方法 1. 重点目標・具体的取組・評価項目・評価指標の共有・周知： ①教職員：職員会議(2026年4～5月頃) ②生徒・保護者等：本校HP公表(2026年5月頃) ③学校関係者評価委員会：育友会・常磐会・友の会役員を中心とした委員会の設置に向けて調整中（2026年5月を目途） 2. 学校評価（自己評価と学校関係者評価）結果の公表： 本校HP公表(2027年6月頃予定)	現状・進捗度 A 十分に達成している。（80%以上） B 概ね達成している。（60%以上） C あまり十分でない。（40%以上） D 不十分である。（40%未満）
--	---	--

自己評価（分析、計画、取組、評価）								学校関係者評価（2027年3月頃実施予定）	
番号	計画・取組（2026年4月1日策定）				評価（2027年3月31日現在）			(2027年2月末時点の自己評価を評価)	
	重点目標	現状	具体的取組	評価項目と評価指標	進捗度	進捗状況	今後の改善方策		
1	【男女別学のミッションスクールとしての魅力の発信】 女子校で教育を受けることのメリットと、確固たる価値観（キリスト教的人間観）を持っているからこそ多様性に対して柔軟な思考で応えていけることを、在校生や保護者の生の声を活かすなどして広報活動を行う	B	第3回東海地区(愛知・岐阜・三重)私立女子中学校COLLECTIONを開催する	・参加者数 ・アンケート評価（満足度）					
2	【6ヵ年一貫にとどまらない視点】	C	南山大学附属小学校や南山大学・大学院、系列校との連携・交流等、新規の取り組みを検討する	・連携や交流の実績					

3	【教育の充実】 ＜宗教性の涵養＞ 異なる立場の人々とともに生きていくことができるよう、生徒の宗教性を養うことをめざし、これまで行ってきた宗教教育のあり方やプログラムの内容を再検討し、実施する ＜カリキュラム＞ 新カリキュラムへの移行が完了したことを受け、教科毎に内容を検証しつつ見直しを行う 加えて、次期教育課程改定に向け情報収集を進める	C	＜宗教性の涵養＞ ・中 1 静修会を 2027 年度から多治見修道院での宗教行事を軸として実施する予定。 それに向けた 2 日間のプログラムの策定 ・中 2 静修会とクリスマス修養会(中 1 希望者)のあり方について再検討を行う	・検討結果の検証					
		B	＜カリキュラム＞ ・共通テスト等新課程入試の分析を行い、必要な大学入試対策を講じる ・進路指導に関する教員研修の継続	・全統模試等の結果と進路実績の分析 ・カリキュラムの検証と見直し					学校関係者評価委員会構成： 南山高等・中学校育友会役員、南山常盤会役員、南山中学高校友の会役員を中心とした委員会の設置に向けて調整する
		B	＜カリキュラム＞ 中央教育審議会等の動きについて情報収集を図るとともに、現行カリキュラムについて検証を行う	・情報収集と共有 ・現行カリキュラムの見直し					